(0)ActionCS

隣接コンピュータから AlarmAcc / DocLaunCS へのリモート指令

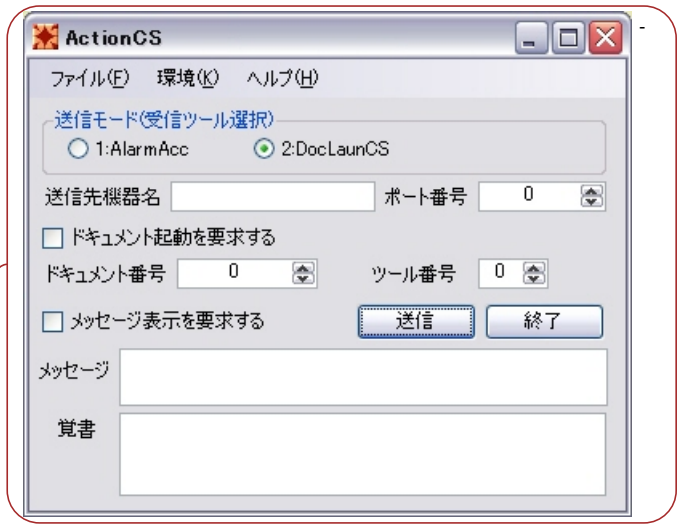
機能

- AlarmAcc / DocLaunCS に登録されているドキュメントを LANで接続されている隣接コンピュータから起動する。
- TimerA の通知機能の時限部分を省いたものです。
  完全手動で隣接コンピュータで動作している AlarmAcc / DocLaunCS に登録してあるドキュメントを起動するツール

ネットワーク環境

- ActionCSが動作しているパソコン[A] からAlarmAcc / DoclaunCS が動作しているパソコン[B] へアクセスできる環境が必要です。
- パソコン[B]で設定してあるの共有フォルダにパソコン[A]から参照できればまずOKです。
- ネットワーク関連の設定
  - 送信先機器名
    - AlarmAcc / DocLaunCS が動作しているコンピュータ名です。
    - DoclaunCSメニューの環境設定で受信設備を有効にすると表示されます。
    - AlarmAcc を起動するとタイトル欄に表示されます。
  - ポート番号
    - 受信設備(AlarmAcc / DocLaunCS)で指定されてあるものと同一の数値を指定します。)
    - 受信設備同士で数値が重複すると起動時エラーになります。

メイン画面



- **受信設備が DoclaunCS の場合、環境設定-受信設備 での設定が必要です。**
- 「ドキュメントの起動」「メッセージの表示」あるいはその両方を必要に応じて送信できます。
- 覚書は送信されません。定義ファイルとして保存した場合、後日の為のメモ書きです。

起動書式

- /actn=<ActionCS定義ファイルのパス名>
  - ⚠ パス名は"｢"ダブルコーテーションでくくるようにしてください。
- /g 自動スタート
  - ActionCS が起動されると同時に｢送信｣ボタンが自動的に押された動作をします。
  - 指定内容を確認・変更することができません。
- /e または /e=<遅延時間>
  - 送信が完了すると指定時間後に自動的にプログラムが終了します。
  - 遅延時間の単位は 1/10秒。 指定無し(デフォルト)遅延時間は10(1秒)です。
- /m 起動時最小化画面